モダン寺新聞
～今号の記事～

一口法話「法事のこころ」　1P
浄土真宗の作法　仏縁を大切に　―葬儀と迷信―　2P
新・旧輪番のご挨拶　3P
神戸別院行事レポート　4P
モダン寺ホームページ　5P
神戸別院法座案内・編集後記　6P

一口法話

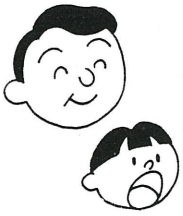
「法事のこころ」

西宮市　乗誓寺住職　菅　義仙

先日、ご門徒Nさんの家で母上の七回忌のご法事がありました。Nさんの兄弟は七人、それぞれ夫婦そろっての参加なので、読経後の食事は賑やかなものでした。たまたま私の隣に座られていた弟さんが「住職さん、今日の法事ありがとうございます。」と前置きして「それにしても、法事のお経でおフクロは浮かばれますかなあ」と口にされたのです。弟さんは関東在住、私と口をきいたのは初めてかもしれません。

「さあ、お経を読んで亡くなった人が浮かんだり沈んだりすることはないです。お経の力は偉大ですが、今日みんなで読んだお経ではお母さんは浮かばれませんよ」と私は申しました。弟さんは不思議そうな顔をして「何のために法事があるんですか」とたたみかけられました。

「ご法事は亡くなられたお母さんのためにするものではなく、また残された七人のためにするものでもありません。先ほどみんなで読経しましたね。それは母上から血を受け継ぎ、それぞれ無事育てられた子どもたちが、今生かされている〝わたし〟に気づくことなんです。お経は『仏説阿弥陀経』ですが、これは仏様が念仏をすすめておられるのです。七回忌のこの日、この場を借りて、仏様に成られた母上は子や孫たちに〝ありがとうよ〟といってお念仏を唱えておられますよ。その微かな声を聞くのが今日の法事なんです。誰かを浮かばせるお経はないし、お念仏もありません。」と言いました。私は続けて「疑いの心は人間誰しも持っていますが、仏様の世界は信心なんです。疑う心を捨てて信ずることです。亡くなられた母上は『弥陀の誓願不思議に助け参らせて……』とあるように救われていらっしゃるのです。あの世で沈んでなんかおられません。法事はね、それに感謝する場でもあるんです。そのことに気が付けばビールはもっとおいしいですよ」といいました。すぐさま弟さんはコップ一杯についでくださいました。



本願寺神戸別院　「盂蘭盆会（うらぼんえ）」

日時　平成12年8月15日（火）　午後1時30分より

お盆には家族そろってお寺にお参りしましょう。

浄土真宗の作法

仏縁を大切に

―葬儀と迷信―

誰一人として望まないのに、必ず人には「死」が訪れます。人生最後の儀式である「葬儀」は私達念仏者にとって一体どういうものなのでしょうか？

「死」にまつわる俗信や迷信には実に様々なものが今日においても数多く浸透しています。例えば家の入り口に「忌中」の札を貼ることや、会葬者に対して「清めの塩」を配ることがその代表ということが出来るでしょう。これらの行為は昔からの習慣で何の疑いもなく、ごくあたりまえのように行っていますが、実はこれらの行いは「死は穢れたもの」という考え方から起こった習慣で、仏教のみ教えに反した行い以外の何者でもないのです。

浄土真宗のみ教えは「阿弥陀如来より賜る信心ひとつで死と同時にお浄土に生まれ、仏とならせていただく」という教えなのです。つまり、通夜から葬儀にかけての一連の仏事は、亡き人への永遠の別れを告げる儀式ではないのです。〝死を悼み、故人の威徳をしのぶ心の中、み仏のはからいによって再び会える世界（お浄土）への思いを確かめあう〟法会なのです。私達凡夫をお浄土に導くはたらきのすべては阿弥陀さまにあるということなのです。死を目の当たりにして悲しみに暮れている私たちは、阿弥陀さまのこうした「お救い」の確かさ・有難さを深く味わってこそであり、俗信や迷信に惑わされ「死は穢れたもの」として避けるのではなく、死も一つの大切な縁として自分自身の「仏縁」を深めていただきたいものです。また、生死を超えて変わることのない阿弥陀さまの真実のお心をよりどころとして生きていくことこそ、大切であるといえるのです。亡くなられた故人もそのような生き方を願われていることでしょう。

では、先ほど一言で〝仏縁〟と申しましたが、その〝仏縁〟って一体どのようなものなのでしょうか？まず第一に思い浮かばれることは「葬儀」や「年忌法要」といったいわゆる「人の死にかかわること」ではないでしょうか。ここでまず申しておきたいことは、お寺というのは「亡くなられた方々や、ご先祖の方」のためにあるのではないということなのです。お寺に葬儀を依頼するということは、残された遺族がそのお寺の説いている教え（私たちの場合なら浄土真宗のみ教え）を聞き従っていくということなのです。つまり、悲しみを「縁」として今生きている「私自身」がみ教えを聞かねばならないということなのです。葬儀が終わったから終わりということではなく、むしろ逆に、「出発点」となるわけです。お寺とのかかわりは日頃から親しんでいただくことが大切なのです。お寺という場所はあくまでも私自身の「聞法の場」であり、決して「付き合いにくい場」ではないのです。お寺の中では誰隔てなく皆平等の仏さまの弟子〝仏弟子〟なのです。

「仏縁を結ぶ」と聞くとどことなくかしこまって聞こえてしまいますが、実は毎日の生活の中で簡単に？できることがあるのです。今、われわれの家庭にはかなりの普及率で「お仏壇」がご安置されていることでしょう。このお仏壇に向かって〝手を合わせる〟ことこそが実は一番身近で誰もが出来る「仏縁」なのです。ここで若干注意をしていただきたいことがあるのですが、皆さんはお仏壇に向かって手を合わせているときに誰に向かって手を合わされているのでしょうか？気持ちの中に亡くなられたご先祖の方々に対して追善の気持ちを込めて手を合わされてはおられないでしょうか？先ほども申しましたように私たちは死をむかえたと同時に「阿弥陀さまより賜る信心一つでお浄土に生まれ、仏さまとならせていただいている」わけですからお仏壇の中にご安置している「ご本尊（阿弥陀さま）」に手を合わせること＝ご先祖の方々に手を合わせる、ということになるわけです。ですから以前のモダン寺新聞の中にも掲載しましたがお仏壇の中には『位牌』や『遺影』などはいれないのです。

まずは私たちが何をおいても大切にしていかなければならないことは〝仏縁に逢う〟ということなのです。年忌法要など節目に仏縁に逢うことも大切なことですが、やはり日常の生活の中でいかに仏縁に逢うかということが大切となるのです。お寺で催される法座の席もその一つなのです。私たちの気付かないところでたくさんの〝仏縁〟が私たちを取り囲んでくれているのです。

この四月一日付けで神戸別院輪番が変わりましたので、この紙面をお借りして新・旧輪番のご挨拶を掲載させていただきます。

このたび、北海道帯広別院輪番を命ぜられ過日着任いたしました。

思えば、大震災後新築寺院第一号になりましたモダン寺を離れるに当たり感無量の念を禁じ得ません。

その間、菲才の身が深いご縁の上にお育ていただき、大過なくお勤めさせていただき、その任を全うさせていただきましたことこれ偏に、皆様方のお導きと、ご協力の賜ものと衷心よりお礼申し上げます。

別院一階ホールの東面御内仏壁面に、お浄土の六鳥が描かれています。その中に、「共命の鳥」という胴が一つで頭が二つある鳥がいます。「ひとつの命を共に生きている。もし、そのことに気づかないで、二つの頭が争い合うと共に命を失ってしまうよ。ひとつの命を共に生きていることに目覚めなさい。」

共命の鳥は、今もお浄土から私にそう呼びかけているのです。

遇い難い仏法にめぐまれ、お念仏の声の中にアミダさまのいのちに共に生かされている私たちです。「同一念仏無別道故」と曇鸞さまがお示しのように、遠く離れましても、同じお念仏のなかに生かされることにいささかの安らぎを覚えます。

新しい任地におきましても、神戸別院でのお育てを心の糧として新たな決意をもって正法弘通のため微力を尽くす所存であります。何卒一層のご指導を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

一々拝眉の上、ご挨拶申し上げるべきところ、転任に当たり紙上をいただいて、お礼のご挨拶を申し上げます。

合掌

本願寺帯広別院輪番
高橋廣爾

このたび四月一日付にて本願寺神戸別院輪番に任ぜられました山内教嶺（やまうちきょうれい）と申します。お寺は三重県にありまして三月末までは本山で研修部長・人材育成対策事務所部長・聞法会館部長を勤めていました。二十年近く以前に広島別院に勤務していましたが、それ以来の別院への勤務となりました。

それぞれの別院には、それぞれの特色があり「モダン寺」と愛称される神戸別院はその外観からしても他の別院に増して特色があります。この特色が十分発揮されるよう努めたいと思います。

門信徒の皆様には今後共、親しくお付き合いいただきますようお願い申し上げます。

モダン寺の名で親しまれるこのお寺は正に国際都市神戸にふさわしいお寺でありましょう。

一般的にお寺と申しますと、イメージとしては暗い部類に属します。しかし、よく考えてみれば、仏教は様々な人生の苦悩から解放されていく教えであり、お念仏のみ教えに遇うことが出来たそのときから明るい方向に転じられていく教えです。モダン寺という名前と、仏教の本来性とは全く同一の方向であり神戸別院がそうした明るいイメージ、市民の皆様に名前だけでなく、本当に親しんでいただけるお寺にすることが大切だと思っています。

お寺が仏教を伝える場であることは言を挨ちえません。仏教を伝えることが、人生を明るくすることであるのも前述の通りです。

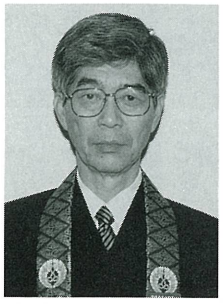
親鸞聖人はお念仏を称えることにより、お念仏のはたらきによって私の無明、すなわち暗闇が打ち破られ、私が生きるべき方向が明らかになると、教えてくださいました。私の闇、すなわち、一寸先が見えない人生がお念仏の無量・無辺の限りない光によって、永遠のいのちに転ぜられ、あるゆるいのちと心の通い合う私につくりかえられます。

国際都市神戸のモダン寺がその教えの本来性を伝える拠点となって世界の人々に明るい社会を作るため、そして子や孫に輝く未来を拓く原動力となりますよう希望をもっています。

どうぞ、親しみやすいお寺作りのため皆様のご指導とご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げご挨拶といたします。

合掌

本願寺神戸別院輪番
山内教嶺



◇◇◇ 神戸別院行事レポート ◇◇◇

春季彼岸会・門信徒のつどい開催

三月十九日（日）から二十一日（火）の三日間、別院本堂にて春のお彼岸法要を門信徒の方々とご一緒にお勤めいたしました。

二十日の中日には午前十時より三回目となります「門信徒のつどい」を開催し、約五十名の方のご参加をいただき、神戸別院高橋廣爾輪番の法話の後、「お勤めの仕方」と題して、揖龍東組源徳寺和田宏之師を講師にお迎えし、正信偈和讃の唱法を皆さんとご一緒に学ばせていただきました。お昼には神戸別院仏教婦人会の方々に用意していただいたお斎を皆さんといただき、午後一時三十分より本堂にて「春季彼岸会」の法要をお勤めいたしました。なお、お彼岸の期間中は納骨所にも数多くのお参りをいただき、みなさんそれぞれに大切なご縁を結んでいただいたようです。

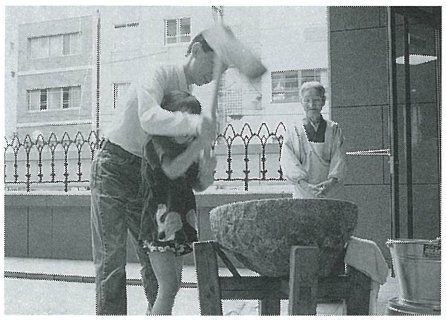
子ども会でお釈迦様の誕生日会

四月二十二日（土）モダン寺土曜子ども会で「花まつり」を開催し、参加者全員でお釈迦様の誕生のお祝いをしました。十一人の子どもたちが参加し、初めに「花御堂」を作ることから初め、それぞれに工夫を凝らし、賑やかに花作りを楽しみました。花作りが完成したところでいよいよ「花まつり」、いつもの子ども会のようにまずはじめに「らいはいのうた」をお勤めし、少し緊張気味でしたが年少者から一人ずつ誕生仏に甘酒を注ぐ灌仏、そして自分たちで作った個性豊かな花御堂を前にみなが満足した表情を浮かべ、最後に参加者全員で記念撮影をし楽しい時間を過ごしました。

親鸞聖人降誕会厳修

五月十五日（月）親鸞聖人のお誕生をお祝いする「降誕会」をお勤めいたしました。

十三日の午前九時三十分より別院仏教婦人会の方を中心としてご門徒の方々と共に法要にお供えする供物の「お餅」をつきました。仏教婦人会会員、ご近所の方々、子どもたちなどで合計十一臼をつき、昔はよく目にしていた餅つきの光景も最近では特に都市部ではめったに目にしなくなり、参加した方々も久しぶりに餅つきをして楽しい表情を浮かべながら皆で一年に一度の別院での餅つきを楽しみました。



十五日の当日はあいにくの雨混じりの天候の中、一時より宗祖銅像前にてお勤めをし、引き続き三階本堂にて法要を厳修いたしました。法要終了後、出石組乗専寺　本多龍雄師を講師にお迎えしご法和を聴聞させていただきました。

降誕会は言うまでもなく親鸞聖人のお誕生をお祝いする法要で、今、私たちが浄土真宗のみ教えに逢わせていただいているのは親鸞聖人がお生まれになり、浄土真宗のみ教えを広めて下されたからこそです。餅つき・法要皆さん共々で親鸞聖人の誕生をお祝いしましょう。

永代経に多くの参拝者

六月十五・十六日の両日午後一時三十分より別院本堂において永代経法要を厳修しました。二日間で約百六十名ほどの方のお参りをいただき、ご先祖の方々のご遺徳を偲び、法要後には宍粟郡西願寺住職の佐々木大觀師のご法話を聴聞し、**私自身が聴聞してこその永代経**の本質（心）を味わっていただけたのではないかと思います。今後の別院開催の法座には一人でも多くの方のお参りをお待ちしています。

モダン寺ホームページ

待ってます!!

神戸別院仏教婦人会より

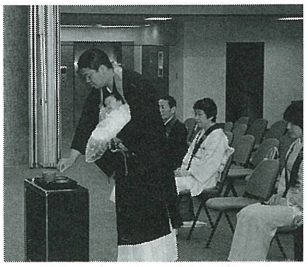
婦人会ってどんなことをしてるの？
どんな人たちが参加してるの？　などなど
婦人会に関心をお持ちの方々、是非一度定例法座を覗いてみてください！
そこにはきっと新たな素敵な出会いが・・・
会員一同みなさんのお越しを
お待ちしています。

ご意見を・・・

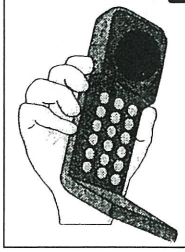
皆さんのご意見、感想等をお待ちしています！今後の新聞発行の資料にさせていただきたく思っています。どんなことでも結構です。作法のわからないことでも、月参りでは時間がないので聞かれないことなど、何でも結構です。電話・手紙・口頭など、お待ちしています。

阿弥陀様にごあいさつ

５月31日（水）午前10時より神戸別院本堂において神戸市灘区の津守すずちゃんの初産式を執り行いました。お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんとごいっしょに阿弥陀様にごあいさつをされました。あらたに仏縁を結んでいただいた“すずちゃん”の健やかな成長を職員一同楽しみにしています。



モダン寺 テレホン法話（078）341−8546



毎週月曜日ごとに法話の内容が変わります。
いつでも、どこでも聞いていただけます。

本願寺神戸別院行事・法座案内

平成12年7月

・第一土曜仏教講座
1日（土）午後1時30分
「**生きるということ**」
講師　和歌山教区和歌山組
西覚寺住職　本願寺派布教使
島　和夫 師

・仏教婦人会定例法座
7日（金）午後1時30分
講師　岡山南組正善寺
篠崎　正光 師

・別院定例法座
15・16日（土・日）
午後1時30分
講師　揖龍西組源徳寺
窪田　正憲 師

平成12年8月

・第一土曜仏教講座
5日（土）午後1時30分
「**平和を守る道を**」
講師　ノンフィクションライター
谷川美津枝 師

・モダン寺暁天講座　午前7時
1・2・3日（火・水・木）
講師　1日　揖龍東組　照雲寺
高島　正鶴 師
2日　北摂組　廣宣寺
門中　浄光 師
3日　姫路中組　法性寺
池本　史朗 師

・仏教婦人会定例法座
休　座

・別院定例法座
休　座

・盂蘭盆会
15日（火）午後1時30分
講師　神戸別院輪番
山内　教嶺

平成12年9月

・第一土曜仏教講座
2日（土）午後1時30分
「**お念仏のお徳**」
講師　奈良教区葛城中組
光輪寺住職　本願寺派布教使
北條　宗圀 師

・仏教婦人会定例法座
7日（木）午後1時30分
講師　赤穂北組　浄蓮寺
増井　浄見 師

・別院定例法座
15・16日（金・土）
午後1時30分
講師　多可組　西教寺
川本　法綱 師

・秋季彼岸会
22～24日（金～日）
講師　滋賀教区蒲生上組
清徳寺住職
寺澤　忍 師

編集後記

以前、他の別院で発行している寺報にこんな記事が載っていました。「お寺は宝の山、ここにくるといろんな人との出会いがあるんです」これは別院の「おあさじ」に毎日お参りに来られるおばあちゃんの言葉らしいのですがこれを目にしたとき、心の中に暖かいものを感じました。

お寺というのは言うまでもなく私達個人個人のものなのです。そこには様々な素敵な出会いが待っています。気軽に遊びにきていただきたいものです。